

口コミ情報カタログ



30歳目前。もう手段は選ばない。恋愛成就を求めて奔走する、裏面ライターの顔末は…

現実逃避アクセル全開の私に向って、「ホンマに彼氏つくる気あるん?」と一喝した編集〇。まさかとは思ったが、私が書いた「理想のタイプ20か条」を手に駆けめぐらし、マジで連れてきちゃった、運命の人を！

赤糸はつながった？ 編



待ち合わせは京都駅。仕事終わりに大阪から駆けつけてくれた山崎さんは身長183cm。しかも超スリム！受け答えにツヅくなく、遊び慣れもしてそーな雰囲気を漂わせつつも、うん、マジ好み。「は、初めてまして～」いつになく照れる。マトモに目が合はせられん。



でかしたぞ、編集〇！内心喝采を送りつつ、とりあえずお食事に。お互いの仕事の話や恋愛経験、愛猫の話からカレ御用達の占い師（？）の話まで、会話の内容は多岐に及ぶ。そして話せば話すほど、彼は向上心をもつ野心家で、実はアツい男だったのがヒヒヒヒ伝わった。



でもなあ、なんて言うかな…。あまりにソツがなさ過ぎて、極楽トンボの私が窮屈さを覚えたのも確か。しかし、こんなゼータク言い出せば、編集〇にハフ裂きにされるに決まってる。店を出た後、気をとり直して京都タワーを見に行った。幸い周りには誰もいない。

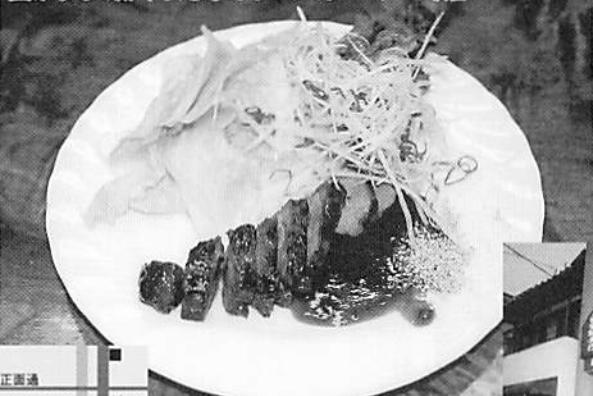


「いっそのままで押し倒して…」と良からぬ考えも浮かんだが、所詮小心者。んなコトできん。いろいろお話ししたのだが、最後まで会話をうまく噛み合うことなく、ジ・エンド。「イイ男はど、実は一緒にいて成れるものなの！」と体得した夜だった。てなワケで編集〇サマ、これからも四散死苦。

**心も体も委ねます
ママのあつたか心意氣**

客という客がメニューにないものを食べてるらしいと嘆の韓麺館38。全てを取り仕切るママに真相を問えば、それはお客の顔次第で変わる。裏メニューならぬ勘定相場制料理であるとのこと。「今日は元気ないな」「生もん苦手なん？」などお客を思いやるマカラのオファーがあつて初めて成り立つ。心憂そのものの味。よって何十日も牛骨を煮出した滋養スープで雑炊が登場したかと思えば、新鮮ぶりぶりのレバ刺しが惜しげもなくステーキへと変貌し、その價段はママの気分で無料にすることもザラだとか。愛の深さに感涙の胸で「参つちやうよな」と原価の高さに苦笑する。主人こそが、誰よりもママのファンだとうことも、常連サンには周知の事実。

生がダメな人のためのレバステーキ 時価



正面通
川端通
七条通

●韓麺館38
かんめんかんさんじゅうはち
京都市東山区川端通正面屋上
☎ 075-561-3739
●18:00～翌1:00／月休



ご来店、それは一つの店に足を運んで頂いた者、信頼のゆきうれしい気持ちをもじった者、そして彼らだけが許された食事…、そう、それが「裏メニュー」。あの禁断のセリフ「マスター、ねつものね」以上に世人の誤解を招きむじる属性の食物

裏メニュー

ママにビケートされるうちに、苦手だった生内や内臓のトリコになつたお客様も数軒。その一方、看板料理の定番品・石焼ビビンバや韓国冷麺、コッキなどは好みを選ばぬ超美味を誇る

I am a みやげマニア!! 100年後にも残したい 京都おみやげファイル



茶席に合うお菓子を
多種揃える和菓子司。
「涼一滴」の発売期間
は、5月のGW明けから9月のお彼岸まで

北大路通
新町通

涼と甘味の 後ろに控える 白ゴマ風味の いじらしさ

直径約7cm、高さ約5cmの器に入った「涼一滴」1個350円。ごま風味と共に発売した水ようかんは滑らかでほどよい甘さ



白い器に納まつた涼一滴。白い器に納まつた涼一滴。色が、妙に安らぐその和菓子。色の正体は敷粉桜粉かぶ白ゴマにあり。今から17年前、開店間もない紫野源水のご主人が、ゴマを使つた夏菓子を作ろうと思つ立つたのがその始まり。大量に出回らない丹波の白小豆、濃厚な風味を持つ白ゴマ、戻した和三盆糖や寒天を合体させ、半年の試作を重ねてついに完成。暑い夏に一滴の清涼感をもたらしてくれますように、との願いを込めて「涼一滴」と命名された。優しい甘味があんの舌ざわりと一緒に訪れて、喉もとにたどり着く前にゴマの風味にそつとハントンタッチ。冷たさとも協力して、甘さが長引かない潔き逸品。シンプルデザインの器の数で、この夏吸収した涼は何滴か一目瞭然！

●紫野源水 むらさきのげんすい 京都市北区北大路新町下ル
☎ 075-451-8857 9:00～19:00/日祝



ボツった「ね」

ドライバーの悩みの種「ネズミ取り」。明らかに指定速度で走る方が危ないやろ！ ちゅううような坂の下なんかで、包囲網を張つてお待ちかねの警察様。が、縄張りでもあるのかやる場所は大概決まってるから学習次第で回避できます。その分駐禁は用心すべし。ちなみに違反の罰金は使途不明金になりがちって噂は本当なのだろうか？

つくね→ たりきり菓子

京都は観光古都だから、古の雅を錦の旗にした一日体験モノには事欠かない。舞妓ちゃんになってお香を匂つて料理を習つて土こねで布染めてお茶点で、そりやもう一日が千秋の長さというかさすが千年都の技は枚挙に暇もなく、和菓子を作つてみよショードラマも当然ある。作る和菓子は概ね、重労働な工程は割愛し生地の細工を楽しむだけの「ねりきり」。色分けした生地を手とヘラで型作る、ある意味お菓子作りといつよりフィギュア制作。

京都の和菓子は江戸モノと区別して上菓子とも言われ、そのココロは御献上の上。菓子もソウクサと呼ぶようなやんごとなき方々に差し上げるお菓子だから、絵面も名前も相当に風流（一説にキザ）だ。ドラ焼きとか大福とかのどすこいなネーミングは無粋で、花鳥風月の風雅がないとあきません…のだけど、こっそり自分で作る分にはガンドムとかに挑戦するのもアリ。ついでにそんな和菓子屋さんがあつてもイイと思うんですけど。

尻とりどり@Kyoto

ね